

H26・8・12

第1号

通巻132号

# 学院通信

発行  
金光学院  
719-0111  
岡山県浅口市  
金光町大谷1486  
TEL (0865) 42-3115  
FAX (0865) 42-3114



広島平和学習 (原爆の子の像)

## 「おかげの中に」

学院長 堀尾 光俊



思うところあって、人生の目標を百八十度転換し、勤めを辞めて、ここ金光学院の門をくぐったのは、今を去ること三十八年前のことである。

当時二十四歳、学院信行の一環として、在籍外教会実習というのがあり、九十名近い同期の学院生達は、すべて希望によって教会を選び、実習へと赴いた。

私も、関西のある教会でお世話になった。着いた翌日の、朝ご祈念の後の教話が今でも忘れられない。それはお結界から、とても穏やかな語り口で始まった。

「私は、この度実習に来られた、日田の堀尾さんのおじいさんが学院長の時に学院生でした。理屈っぽかった私の、学院長室へ押しかけたの質問に、それはそれは一つひとつ丁寧にお答え下さった。そこで卒業の日、改めてそのことを心からお礼申しあげた。すると堀尾先生は「いやあ、これもご縁ですよ、ひよっとしたら、私の孫があなたのお世話になるかもしれません、すべてご縁です」と仰った。そして、この度の学院生名簿の中に、堀尾光俊 日田教会、とあってびっくりした。あの時堀尾先生が仰ったことが本当になった、と声に出して感激しました」とのお話だった。沢山の参拝者を前にしてのお話に、私の方が恐縮し小さくなっていくことを覚えている。

祈り祈られお世話になり合う、あいよかけよの連鎖、そのお道のおかげの中に人が育つということをしみじみと思う。

さらには、先日院外講師として出講されたある先生のお言葉の中に「去る五月十五日皆さんが学院に入学された時、私も同時入学・同時修行の心で、ご霊地在任の方々と共にお迎えいたしております。毎年このことでもあります。ですから、私に卒業はございません」とあり、私は胸を突かれた様な、打ち震えるような衝撃と感動を覚えた。

こうして、全教の祈りの中に、ご霊地の祈りとお徳を一人ひとりが身一杯に受けただいて、ここから的大みかげを蒙らせていただきましたものである。

学院創設百二十年のお年柄にある今日、心静かにお礼を申したい。ありがとうございます。

# 今年度の学院生活について

学院次長 横山勇喜雄

今年、教祖様ご生誕二百年の祝年でありますとともに、金光教学院の前身であります神道金光教会学問所が、明治二十七年(一八九四)年十一月二十九日に開設されてより百二十年の記念の年を迎えております。

そのお年柄に、本科生三十七名(男子二十二名、女子十五名)が入学をいたしました。

日々、教主金光様のお祈り添えをいただき、本部広前のお結界で毎朝、奉仕が



寮内巡回

お届けをして始まる学院生活を、全員そろってここまで進めさせていただいておりますことは、まことにありがたいことに存じます。

また、前任の松岡道雄学院長が任期を満了されて退かれましたので、今年度より堀尾光俊新学院長のもと、新しい体制で学院教育を進めております。

入学式を挙行了した五月十五日から十二月二日までを前期とし、「神に心を向ける」ことを信行目標に掲げ、各自が目標達成のために具体的な実践課題を設けて取り組んでおります。

日常の起居一切を信心の行とする学院では、朝目覚めた時から寝るまで、あるいは睡眠中も修行と申せます。

とりわけ食することは生きる上では欠かせないことです。ましてや「終生道の御用に立たしめ給わんことを祈りまつる」と祈願するからには、終生道の御用にお使いいただける体の丈夫を願い、自らも心がけてつくっていかねばなりません。そのために、学院では、「三度の食

事をどういただくか」ということを課題としております。

入学直後に、保証教会長宛に、学院で出される食事を中心にして、御用にお使いいただける体づくりをしてもらいたいとの願いで、個人宛の差し入れはしないでくださいとお願いいたしましたことも、この課題に取り組む中から出てきたものであります。

また、入学後早々に、文化活動で茶道を担当してもらっております先生から、和式の作法(はたきのかけ方、畳の掃き方、座布団の出し方など)に併せて食事の作法も指導していただきました。

作法は、知っただけでできるものではありません。慣れないながらも、稽古を続けるうちに身につくものですから、これまで努力を重ねてきた学院生は、とて



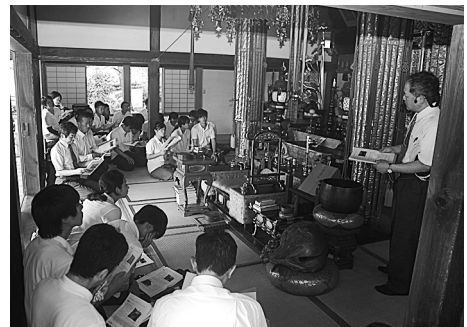
図書館見学

も食事の作法がきれいになりました。同時にそれは、供される食物の命に対する謙虚な姿勢でもあると思います。

学行におきましては、七月末に第一回の定期考査を実施し、学ぶ学院生も教える講師も、共にここまでの学行状況を確認し、信行状況と併せて、これからの取り組みについて班付職員と懇談をしたところであります。

六月十四日に特科生に六名(男子四名、女子二名)が入学をし、一か月の課程を終えて、七月十五日に全員そろって卒業式を迎えることが出来ました。

本科生にすれば、入学から一月、やっと学院生活に慣れたところでしたが、信行面では親切にお世話をしてくださり、初心に返ることもできたのではないでしょう。



聖蹟巡拝(泉勝院)

夏期在籍教会実習中には、在籍教会の歴史を調べる課題が出ておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。また、学院教育に関するご意見などありましたら、どんなことでも結構ですので、ご連絡くださいますよう、お願いいたします。

一日の信行内容

(時間)	(信行内容)
5:20	起床
5:40	参拝出発
6:00	本部広前御祈念・洒掃
7:30	朝食
8:30	朝礼
9:00	午前の授業
11:50	洒掃
12:30	昼食
13:30	午後の授業
15:20	参拝出発
15:40	本部広前御祈念・洒掃
16:40	お退けお見送り・洒掃
18:00	夕食
19:00	夜御祈念
	自修・入浴
21:00	閉門
22:00	消灯

講義科目・担当者

布教科目群	教団科目群	教祖科目群
直信・先覚 結界取次 各種活動 礼典(祭式) 礼典(祭式) 礼典(祭詞)	教団史 教制 教団活動	教祖概論 教祖 教祖 教義
眞田奈保子 安武 秀信 安部 美雄 堀江 芳則 高橋美智雄 田中 照彦	加藤 実 木村 正明 高橋 斉	堀尾 光俊 坂口 光正 佐藤 光貴 横山勇喜雄

# 「いままでのまなこ」

## ■信行輔導期間

学院では、新入生が学院の基本日課を身につけ、これからの信行生活の基本となるところをそれぞれが自覚していくことを願いとして、信行輔導期間を設けている。期間中、学院生は終日、黒衣で生活をし、前年度の卒業生であるOBから、奉仕・洒掃・炊事・待命を中心とする学院生活の基礎についての指導を受けた。OBによる行き届いた指導により、本科生三十七名が、学院修行の第一歩を自らの足で踏み出すことができたと感じる。

本年度のOBは以下の通り。(敬称略)

藤井 雅孝(香川・陶) 花田 三恵(富山・神通)  
 明渡 孝(福岡・合衆) 佐田 寿子(福岡・中原)



洒掃指導

## ■聖蹟巡拝

田中 真人(愛媛・内子) 安武木綿子(福岡・甘木)  
 丸山 良和(福岡・小倉東部)

本年は、教祖様ご生誕二百年の記念の年を迎えて、六月二十日、教祖様のご生家に、本科・特科合同で参拝させていただいた。梅雨の中休みの好天に恵まれ、ご生家までの約一里の道のりを、教祖様のご事蹟に思いをはせながら、教祖様も歩かれたであろう道を辿った。途中、荒神社、早馬神社、森田八右衛門さんのお墓などを巡り、杵池まで一気に歩いて一休みし、ご生家とは丘をはさんで南に位置する、安政四年の「神の頼みはじめ」の事蹟で有名な実弟香取繁右衛門が開いた香取金光教本部に参拝し、堅磐谷から繋がる金神信仰の系譜を学んだ。ご生家では、ご当主の香取航師から教祖様にまつわるお話を拝聴し、ご養子に入られる前の教祖様のご様子、また養子に入られてからのご生家との関わりをも学ぶことができた。教祖様直筆の天地書附と神名書付、とせ様が結婚式にお召しに



ご生家

なった式服、三十三歳の四国めぐりで使われたという杖など、貴重な収蔵品を見させていただいた。帰路、香取家の檀那寺泉勝院から山道を辿り、ご生家の氏神である大宮神社に参拝、神社の拝殿で昼食をいただいた。

本年度は、秋に、西大寺観音院、吉備津神社、鞆津祇園宮など教祖様ゆかりの寺社への参拝を予定している。

## ■広島平和集会

世界真の平和のご神願成就への祈りを新たにさせていただくため、七月二十日、広島平和集会に参加した。今年学院生が自主企画として事前に、庚午教会新見隆司師の体験発表『被爆のどん底からのビデオを鑑賞し、被爆体験への理解を深めて臨んだ。広島に到着後、平和記念公園を訪れ碑をめぐって、原爆で亡くなられた方々へ祈りを捧げ、折り鶴を献納した。続いて、



被爆体験講話

広島原爆死没者追悼平和祈念館において、語り部山本定男氏から、被爆体験談を聴かせていただいた。そして、山本氏の具体的な体験談を思い

起こしつつ、平和記念資料館の見学を通し、

原爆が想像を絶する惨状を生み出し、核兵器の恐ろしさを改めて痛感させられた。

昼食後、原爆慰霊碑に参拝し、原爆死没者慰霊祭並びに平和集會に参加した。

慰霊祭では、当日の奉仕が代表して玉串を奉奠し、また合唱に参加し、「Let's go」

「折り鶴の歌」「新しいいのち」を歌い、慰霊と平和への祈りを捧げた。

■文化活動

学院では、教師としての基礎的素養を身につけ、深い人格形成に資することを願いとして、文化活動を設定しており、典楽、華道、茶道、書道のいずれかを選択し、毎週水曜日の午後に実施している。

典楽／十九名(男子八名 女子十一名)

典楽では、金光教典楽会より岡本庄一師・金光あかり師を講師に迎え、学院生は箏・笙・龍笛・箏篳の中から楽器を選択して、練習を進めている。初めて楽器に触れる学院生も多い中、初めはおぼつかない音色であったが、だんだんと教室棟にきれいな音色を響かせるまでになっ



てきた。

秋を迎える学院霊大祭での典楽奉仕に向けて、奏樂が神様に喜んでもらうお供えとなるよう、夜ご祈念後の時間などを利用して、それぞれに稽古に励んでいる。

華道／三名(男子二名 女子一名)

華道は早川さなえ師(流派は池坊)からご指導をいただき、正風体生花、新風体生花、自由花等について学び稽古している。作品は、学院広前や、廊下飾られ、学院内を華やかにして学院生達の心を和ませてくれている。

早川師の丁寧な指導のもと、心を込めてお花を生けることにより、一本一本の花の美しさや命の尊さを実感し、調和の取れた命の輝く世界が表現されていくことを毎回の稽古を通してさらに学んでいきたい。



きたい。

茶道／四名(男子二名 女子二名)

茶道では、太田裕子師を講師に迎えて、四名の選択者が数ノ内の流派に触れている。毎回異なる季節の美しいお菓子に心弾ませながら、一人ひとりがお点前を身に

つけるため、稽古に励んでいる。先日特

科生を招いてお茶を振舞い、お客に点前を披露することの難しさを感じた。これからお点前だけでなく、茶道具や書、軸、茶花などについても学んでいく。



書道／十一名(男子十名 女子一名)

書道は、中桐真彦師が稽古の大切さを教えてくださり、学院生も一生懸命稽古に取り組んでいる。実際に多くの学院生が、目に見えて上達をしていると感じられ、大変ありがたいことである。

本年も、生神金光大神大祭に合わせて学院書華道展を開催させていただき、それぞれが思いを込めた字を書いた半切を展示する。創設百二十年のお年柄ということもあり、稽古にも力が入っている。また学院合同茶会では、色紙に好きな文字を書いて披露する予定もあり、今後とも先生のご指導を仰ぎ、稽古に勤しんでいきたいと願っている。



日程

(夏期在籍教会実習まで)

5月	6月	7月	8月
14 15 15 23 24 25 26 28 29	2 3 4 5 9 14 15 20 27	1 4 15 19 20 21 28	1 2 4 6 11 12 19 20 21 28
本科入寮式 本科入学式 信行輔導期間 実践課題設定週間 大掃除(畳上げ 境内地芝刈り) 授業開始 図書館見学 消防訓練	第一回 求道の日 木綿崎山作業 文化活動開始(毎週水曜日) 教団独立記念祭御用奉仕 特科入寮式 特科入学式 聖蹟巡拝(〇生家方面) 特科教話実習	第二回 求道の日 学院長寮内巡回 特科卒業証書授与式 「全教勢をそろえて社会奉仕の日」参加 「広島平和集會」参加 第一回 部屋替え 第一回 定期考査	第三回 求道の日 第一信心レポート懇談 木綿崎山作業 教祖様ご生誕二〇〇年 金光教少年少女全国大会御用奉仕 夏期在籍教会実習

# 特科生 卒業



今年度の特科生六名(男子四名、女子二名)は、六月十五日に入学し、七月十五日までの一か月間に及ぶ学院修業を進めた。

教典ゼミ・祭式・祭詞等の学行は、特科独自のカリキュラムを編成したが、参拝、洒掃、炊事等の信行は、本科生の班に加って行つた。

特科生、本科生と共に生活し、修行していくことで、刺激し合い、磨き合つて、お互いの修行の上で、大きな意味を得たようである。卒業前には、共にここからの御用成就、修行成就を祈り合つて、来年の教師任命式には共に同期として出席できることを楽しみにしているとの声も聞かれた。

本科生と共にここからの特科生それぞれの御用成就を願っている。

みんなにささえられて



滋賀県・石山教会  
山本 弘

特科生として学院に入学させて頂き、初めて本科の皆さんと出会った時、正直、若さと勢いの違いに圧倒され、少しとまどい「やっついていけるかな」と不安になりました。

しかし、みんな優しく明くるておもしろい。不安はすぐに消え、楽しい学院生活を送ることができました。苦しくてつらい修行の日々を想像していたけれど、「今日は何をさせてもらえるのかな」



教話実習

と、毎日わくわくしながら、ものすごく充実した修行をさせてもらえました。たくさん気を使ってくださり感謝しています。本当にありがとう。今、優しく明るい皆さんが、どのように修行されて成長されるのか、おじさんの私としては楽しみです。

がんばれ！みんな

## 二度とない経験



岡山県・御野教会  
小林 治代

特科の特別なカリキュラムの中、授業やレポートをこなし、炊事、洒掃など本科の方々について行くのに必死な毎日を通りました。



祭式授業



共励会

一ヶ月という短い期間ではありましたが、日夜、教主金光様のご祈念、御取次を頂き、学院長先生、諸先生方はじめ、多くの方々のお祈りを頂き、また本科の方々に支えられ、ありがたい気持ちで御修行させて頂きました。学院という御霊地のお徳に包まれる中、学院の諸先生方の講義を受け、本科の方々と寝食を共にし、生活させて頂く中で、教祖様のみ教えの理解を深め、信心する心、神様に向かう心をお育て頂きました。

まだまだ未熟な自分ですが、学院生活で学ばせて頂いたことをはじめ、何もかもがお世話になつているのだというお礼の心を土台に、人の助かるお道の御用に努めさせて頂きたいと思ひます。

また、本科の方々が修行成就のおかげを蒙られますようお祈り申し上げます。

# 学院生の声



## 自分を見つめ直す



大阪府・阿倍野教会  
池田 豊一

教主金光様の御取次を頂き、無事に今日までご修行に励ませて頂くことが出来ましたことは、真に有り難く、恐れ多く、勿体ないことであります。

毎日、学院広前で奉唱させて頂いている「学院生活の願い」の一節に、「教祖の教えに基づいて天地の道理を学び、人間のあらゆる問題を信心の眼で見る力を養いつつ、天地書附を体して、神の願いに生きる」とあります。神様は、私にどの様な願いをかけて下さっておられるのかを悟らせて頂く為に、学院生活で起る



自主企画(フットサル)

この中で見えてくること、聴こえてくることの全てを、神様に心を向け取り組ませて頂きたいです。

他の人を見て、色々と考えたりすることがあります。しかし自分を見ることに集中し、どうすれば神様の願いに添わせて頂けるのか、どうすれば真・真心になれるのかを考え、「自分を見つめ直す」ことにも取り組ませて頂きたいです。

前期前半を終えますが、狎れてしまうことのない様に、残りの学院生活、しっかりとしたい願いを持ち、一日一日を大切に過ごさせて頂きたいと思えます。

## 神様に感謝する心



兵庫県・葦合教会  
浅田 千枝

二ヶ月前、私は、御修行して神様の御心に少しでも近づかせて頂くために学院に入学させて頂きました。また、その中でより良く生かされている一病気やけがないこと等一ではなく、神様に命を給わっていること自体に御礼を申し上げられる自分になることを目標としていました。

学院生活は毎日楽しく、教友達とも日々価値観を共有し、個性の差を神様か

らの気付きと得ながら切磋琢磨してきました。また、班長を始め、奉仕や係など様々な御用を頂く中で、毎朝目覚めることが、今日も神様に御修行を許されている、つまり今日一日生きることを許されているように思え、それに対して感謝できるようになって来ました。これからこの学院生活、様々な事に対して



全教勢をそろえて社会奉仕の日

峙する毎に、神様に心を向け、感謝の心を忘れずに、御修行に励ませて頂きたいと思っております。

## 告知

・生神金光大神大祭の期間中、平成二十六年金光学院書華道展を、金光学院第一教室にて開催いたします。ご多用の折とは存じますが、ご高覧ご指導賜りますよう、ご案内申し上げます。  
・十一月二十九日に創設百二十年記念式(式典・講演)を執り行います。ご都合頂きましたら、是非ともお越しください。

## 平成26年度 教区別入学者数

( )内の数字は男/女

